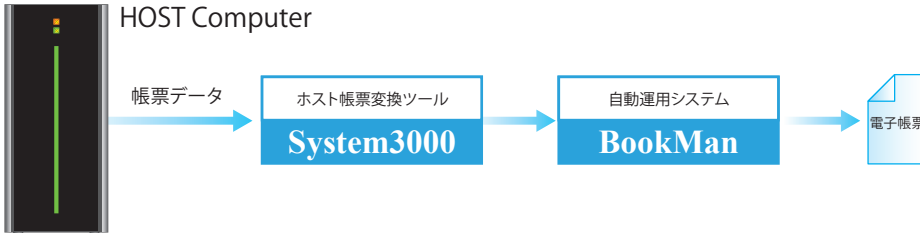


ホスト帳票変換ツール System3000

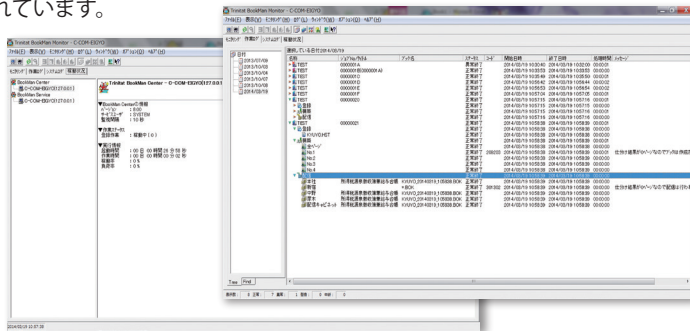
「System3000」は、ホストコンピュータから出力された帳票データを、電子帳票ビューソフト「System35」で表示できるファイル形式「bok(ブック)」(=電子帳票ファイル)に変換する帳票変換ツールです。この電子帳票ファイルにフィールドとキーの定義を行うことにより、データベースソフトと同様の多面的な検索が可能となります。横展開フィールドの設定もできるので、データが横に繰り返されているような帳票でも、表計算ソフトなどで加工しやすい形でコピーすることが可能です。



対応ホスト: 富士通(MSP・XSP・FSP)、日立(VOS 3・VOS 1・VOS K)、IBM(MVS(OS390)・VSE-OS400)
 フォームオーバーレイ: 富士通(ADJUST V10/11/12)、日立(FOG、FOG2)、IBM(IEBKOVLY・OGL)、XEROX(FDL)

自動運用システム BookMan

「BookMan」は、帳票設計・開発ツール「System5000」や帳票変換ツール「System3000」を利用した帳票データからの電子帳票化を、自動的に行うための運用自動化システムです。導入時の初期設定は必要ですが、以降はBookManの稼動するPCに帳票データを送るだけで、帳票データの変換/仕分け/配信が自動化されるので、日々の運用オペレーションは不要となります。また、遠隔地への圧縮配信や文字列による帳票の仕分け、削除日付の設定など、帳票運用に便利な様々な機能が搭載されています。



●仕分配信

帳票上の文字列で電子帳票ファイルを仕分けすることができます。例えば、部署名などで仕分けし、部署ごとに電子帳票ファイルを作成するといったことが可能です。また、電子帳票ファイルの構築と配信を平行して同時に行なうことができるので、トータルの運用時間を大幅に短縮できます。

●TCP/IP (C-JEF) 通信連携

TCP/IP上のTrinitätの独自プロトコル(C-JEF)を利用することで、業務システムから「BookMan」をコントロールすることができます。
 (BookManと連携して自動印刷するためには、別売の「Spool Writer」が必要です)

